

3. 京極氏の分国支配

(1) 複数の国々の守護職を兼任

・守護自身は在京→分国に派遣した代官ら(守護代・小守護代・郡代)を通じて分国統治

(2) 出雲における分国支配

①分国の支配・統制

・所領の安堵・施行、相論の裁定、租税の賦課、幕府御料所の管理・請負、荘園の守護請

②国内領主の組織化

③守護所と守護領

三 幕府一守護体制の変質 —第2期(嘉吉~文正)

1. 嘉吉の乱の衝撃

・室町幕府6代將軍足利義教の恐怖政治 → 諸大名の反発 → 1441 將軍の暗殺(嘉吉の乱)

・出雲国守護京極高数も負傷、まもなく死去

2. 諸国守護の自立化

・上意の不在 → 室町幕府一守護体制のバランスが崩れる

・中央政界では両管領家(細川・畠山)による幕政運営 → 守護家の系列化が進行

・諸国では守護の分国支配を上から秩序づけていた仕組みが崩れ、守護支配が自立化

→ 寺社本所領の押領と安堵、守護による領主層に対する統制の強化・一元化

・室町幕府はますます諸大名(諸国の守護)への依存度を高める

3. 京極持清による分国支配の整備・強化

・室町幕府の求心力が低下する中で、京極氏の分国は一体化を強める

四 応仁の乱と京極氏 —第3期(応仁~文明)

1. 応仁の乱の勃発

・「大名頭」= 諸大名のリーダーである山名宗全と細川勝元との幕政をめぐる主導権争いに

將軍家や諸大名の内部紛争が絡みあって大きな戦乱に発展(応仁の乱)

・京極持清は東軍の主力メンバーとして大乱に参戦

出雲からも赤穴・三刀屋・佐波・高橋らが上洛し、持清の配下で京都の戦闘に加わる

・文明2年(1470) 京極持清の死去

→ 京極氏の家督をめぐる内紛→ 京極氏も東軍と西軍に分裂

京極初孫 入道 入道三男	大内新助	六角四郎 初孫 初孫三男	同大内以下一族	畠山右衛門 佐義就	土岐美乃守 齋藤義隆 齋藤義隆以下	一色	山名相模守 以下一族 数輩	御座	西方本城 山名入道 宗全 屋形 南主 今出川殿	仁木	新波兵衛 佐義就 朝倉正左衛門 初孫 初孫三男	六角四郎 雅延 初孫 初孫三男	山名正家 宗全之末子也	京極入道 孫九歳童	同伯父六郎 多賀	赤松大膳 大夫	同讃岐守 以下一族 中数輩	畠山尾張守 政長	武田大膳 大夫	京極入道 孫九歳童	同伯父六郎 多賀
--------------	------	--------------	---------	-----------	-------------------	----	---------------	----	-------------------------	----	-------------------------	-----------------	-------------	-----------	----------	---------	---------------	----------	---------	-----------	----------

大東院寺社雜事記 文明四年 正月二十五日 永
去廿一日 山名入道 宗全 入道 孫 其夜 同一族
大内新助 降参公方 御陣 = 参戦 = 天下無爲 甚
云々 珍重此六十年之間 天下大乱 諸大名引分
兩方 日々夜々 合戦 畠山一族 乱故也
東方本城 室町殿御所也 主上并三種神祇御
座

14 文正度大賞会守護出銭

守護名	面付額	守護職国	上納代	上納代	推定負担額
畠山政長	1国100	紀伊・河内・越中	40	8-500	348-500
細川勝元	〃	播磨・丹波・讃岐・土佐	40	8-500	448-500
斯波義廉	〃	尾張・遠江・越前	40	8-500	348-500
山名宗全	〃	但馬・播磨・伊賀・備後	40	8-500	448-500
細川成之	〃	三河・阿波		30-000	230-000
一色義直	〃	伊勢・丹後		30-000	230-000
畠山義統	〃	能登		30-000	130-000
京極持清	〃	飛騨・出雲・隠岐・近江(?)		30-000	430-000
山名教清	〃	伯耆・備前		30-000	230-000
山名政清	〃	石見・美作		30-000	230-000
山名七郎	〃	因幡		30-000	130-000
細川常泰	50	和泉半国		22-500	72-500
細川常有	50	和泉半国		22-500	72-500
細川勝久	100	備中		30-000	130-000
細川成春	50	淡路		30-000	80-000
土岐成頼	100	美濃		30-000	130-000
佐々木龜寿	100	? (近江カ)		30-000	130-000
武田信賢	100	安芸・若狹		30-000	230-000
赤松政則	50	加賀半国		15-000	65-000
富樫鶴重	50	加賀半国		15-000	65-000
上杉房定	100	越後		30-000	130-000
計	3,650		160	499-000	4309-000

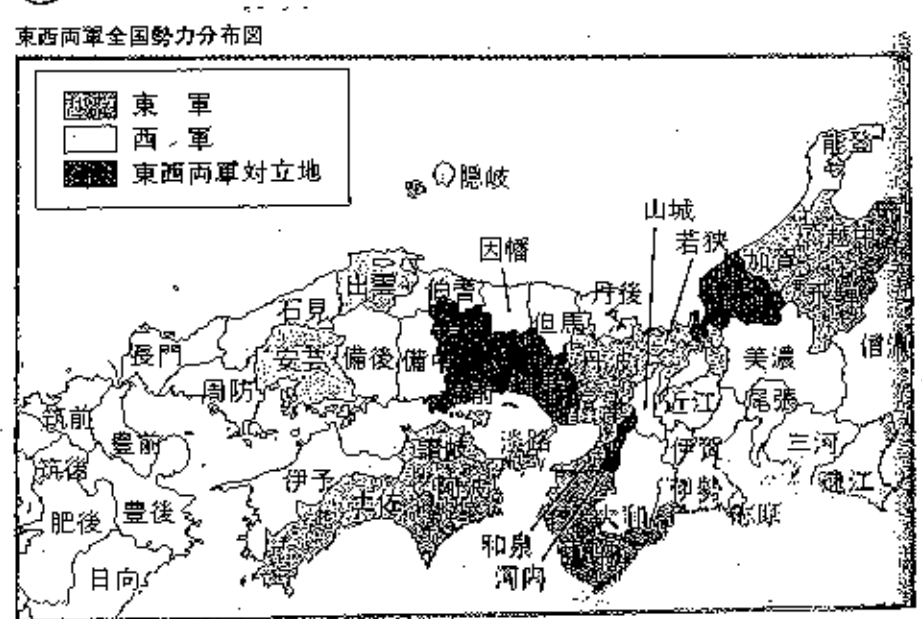
16 両軍の構成(応仁に記より)

東軍(細川方)	西軍(山名方)
播磨・丹波・土佐・讃岐 他	但馬・播磨・備後 他
阿波・三河	伯耆・備前・相模
備中	因幡
淡路	美作・石見
和泉	越前・尾張・遠江
丹波	大和・河内・能登
讃岐	能登
越前	近江
紀伊・河内・越中	丹後・伊勢・土佐
出雲・飛騨・近江	美濃
播磨・備前・美作	周防・長門・豊前・筑前・安芸・石見
加賀	伊予
安芸・若狹	
合計	合計
160500騎	111000騎

13 師期記

十八日、當國介親家連、上意、家督事被仰付舍弟喝食、則號介泰高、
廿四日、赤松大膳、大夫入道性具、申、御成、於其座有御事、則令放火私宅、子息彦次郎、敬康、舍
弟左馬助、同伊與守以下引具之、没落播州、
令御供討死人数、
岩中務大輔 佐々木加賀守 大内大膳大夫 市 遠山、
手負人数
三條西相實雅卿 山名右衛門佐傳所 細川下野守、
廿四日、今日渡御赤松宿所、而西刻許奉討室町殿、則放火、没落播州了、前代未聞之次
第也、参會人々三左左金吾、管領・畠山・同修理大夫・山名・細川・讃州・大内・京極等
也、左金吾被抵三ヶ所、大内・京極同被抵、京極家則死去了、御共衆中山名中勢大輔於
當座被討、細川下野被抵、走衆三人、其外人々無爲云、室町殿ハ奉
取御頭下國云、於御死骸者翌朝奉取之云、赤松伊與・左馬助兩人家同放火了、

15 東西両軍全国勢力分布図



18

室町幕府奉行人連署奉書案

出雲・隠岐両国段銭事、故

大膳大夫入道生觀被官人等就

申之、近年依免置、公役已下閣

息之条太不可然、所詮悉令并破、

任去永享年中之例、致懸沙汰、

嚴密可被懸仕諸役、若有及

吳儀之族者、可被處罪科之由、所

被仰下也、仍執達如件、

文明十四年十二月十九日

下野守判

大和司判

佐々木治部少輔殿

室町幕府奉行人連署奉書案

出雲・隠岐両国段銭の事、故佐々木大膳大夫入道生觀被官人

等、これを申すにつき、近年、免し置くにより公役已下を閣意

し候条、はなはだ然るべからず。所詮、悉く棄破せしめ、去る

永享年中の例に任せて、懸け沙汰を致し、諸役を勤仕せらるべ

きの旨、治部少輔政経に仰せ付けられ畢んぬ。更に難波あるべ

からず。若し異議に及ぶの族あらば、罪科に処せらるべき由、

仰せ出され候なり。仍って執達くだんの如し。

文明十四

十二月十九日

英基判

元連判

佐々木尼子民部少輔殿

室町幕府奉行人連署奉書案

吉川家文書

大日古三二七

佐々木尼子民部少輔事、背御成敗、押置寺社本所領、

剩今度、御所御修理料段銭事、被仰付宮内二人之處、令

難波、其外条々緩急非一之上者、被成退治之御下知畢、

然而、如風聞者、佐渡兵部少輔合力被尼子出張、言

語道断之次第也、河州進發事被仰付之處、令遲怠、結

句如此之所行太不可然、自然雖有申子細、不日止其締、

可被發向河州由、所被仰下也、仍執達如件、

文明十六年三月十七日

下野守判

大和司判

吉川次郎三郎殿

室町幕府奉行人連署奉書案

吉川家文書

大日古三二七

佐々木尼子民部少輔事、背御成敗、押置寺社本所領、

剩今度、御所御修理料段銭事、被仰付宮内二人之處、令

難波、其外条々緩急非一之上者、被成退治之御下知畢、

然而、如風聞者、佐渡兵部少輔合力被尼子出張、言

語道断之次第也、河州進發事被仰付之處、令遲怠、結

21

御内書案文

就上洛之儀、申合大内左京大夫、致忠節者、可爲神妙候也、

六月十七日

山名次郎殿

一通同相模守殿

一同治部少輔殿

一同民部少輔殿

一同紀伊守殿

一同佐々木大膳大夫殿

一同民部少輔殿

一同兵部少輔殿

一同佐伯善四郎殿

武道可レ有副狀一人數

山名次郎殿

山名相模守殿

山名紀伊守殿

山名民部少輔殿

山名大膳大夫殿

山名兵部少輔殿

山名佐伯善四郎殿

山名佐々木大膳大夫殿

山名同民部少輔殿

山名同兵部少輔殿

山名同佐伯善四郎殿

山名同武道可レ有副狀一人數

山名同山名次郎殿

山名同山名相模守殿

山名同山名紀伊守殿

山名同山名民部少輔殿

山名同山名大膳大夫殿

山名同山名兵部少輔殿

山名同山名佐伯善四郎殿

山名同山名佐々木大膳大夫殿

山名同山名同民部少輔殿

山名同山名同兵部少輔殿

山名同山名同佐伯善四郎殿

山名同山名同武道可レ有副狀一人數

山名同山名同山名次郎殿

山名同山名同山名相模守殿

山名同山名同山名紀伊守殿

山名同山名同山名民部少輔殿

山名同山名同山名大膳大夫殿

山名同山名同山名兵部少輔殿

山名同山名同山名佐伯善四郎殿

山名同山名同山名佐々木大膳大夫殿

山名同山名同山名同民部少輔殿

山名同山名同山名同兵部少輔殿

山名同山名同山名同佐伯善四郎殿

23

宗濟（京極政経）書状案

吉童子方江談状并代々

證文等事、預置之候、儲

可被渡遺候也、恐々謹言、

十月廿一日

宗濟在判

尼子民部少輔殿

多賀伊豆守殿

宗濟（京極政経）書状案

吉童子方江談状并代々

證文等事、預置之候、儲

可被渡遺候也、恐々謹言、

十月廿一日

宗濟在判

尼子民部少輔殿

多賀伊豆守殿

宗濟（京極政経）書状案

吉童子方江談状并代々

證文等事、預置之候、儲

可被渡遺候也、恐々謹言、

十月廿一日

宗濟在判

尼子民部少輔殿

多賀伊豆守殿

宗濟（京極政経）書状案

吉童子方江談状并代々

證文等事、預置之候、儲

可被渡遺候也、恐々謹言、

十月廿一日

宗濟在判

尼子民部少輔殿

多賀伊豆守殿

宗濟（京極政経）書状案

吉童子方江談状并代々

證文等事、預置之候、儲

可被渡遺候也、恐々謹言、

十月廿一日

宗濟在判

尼子民部少輔殿

多賀伊豆守殿

宗濟（京極政経）書状案

吉童子方江談状并代々

證文等事、預置之候、儲

可被渡遺候也、恐々謹言、

十月廿一日

宗濟在判

尼子民部少輔殿

4